

カラフルな教育

～だれでも参加しやすい環境作り～

チームメンバー：竹内晴香（国際事務局 国際教育G／留学推進）

能木智矢（学事局 教務事務／教職支援）

吉沢晃（法学部）

與田祐大（経済学部）

姫野美咲（文学部）

私たちが持った問題意識

多様性が十分に確保されていないという現状

なぜ大学は多様性を確保すべきなのか

- ①多様な意見・価値観による学びの深化
- ②SDGsの基本理念「だれ一人取り残さない」の実現
- ③関西大学の魅力向上

チーム内で話し合った改善点や配慮すべき点

- ・ LGBTQの方への配慮（トイレや寮など）
- ・ 体が不自由な方への配慮（大学設備のユニバーサルデザイン化）
- ・ 宗教や文化に対する配慮（食事や祈祷所など）
- ・ 社会人教育を推進するための環境整備（現在は高齢者の方が多い）
- ・ ダイバーシティに関する牽引役のような窓口や部署がない

気づき

学生・教員・職員それぞれが
改善案やアイデアを持っている

10年後を想定した解決策

予測困難な時代、改善・配慮すべき点が
新たに出てくる可能性は高い



改善・配慮すべき点を集めて
改善につなげるような仕組み作りが必要

10年後を想定した解決策

ダイバーシティ推進に関する
部署・窓口・委員会の創設

上層部
(大学の方針)



A部署

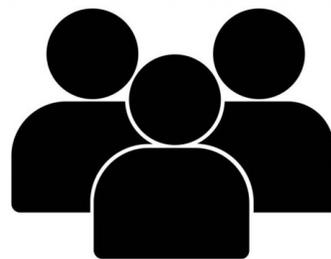
B部署

…部署



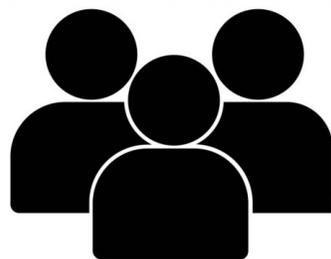
各部署の業務内での改善

(学生)



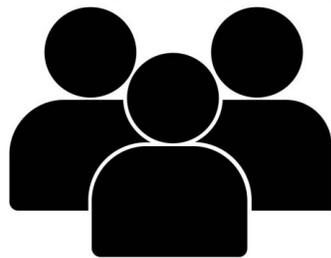
学生の立場でも
アイデア・改善点を伝えたい

(教員)

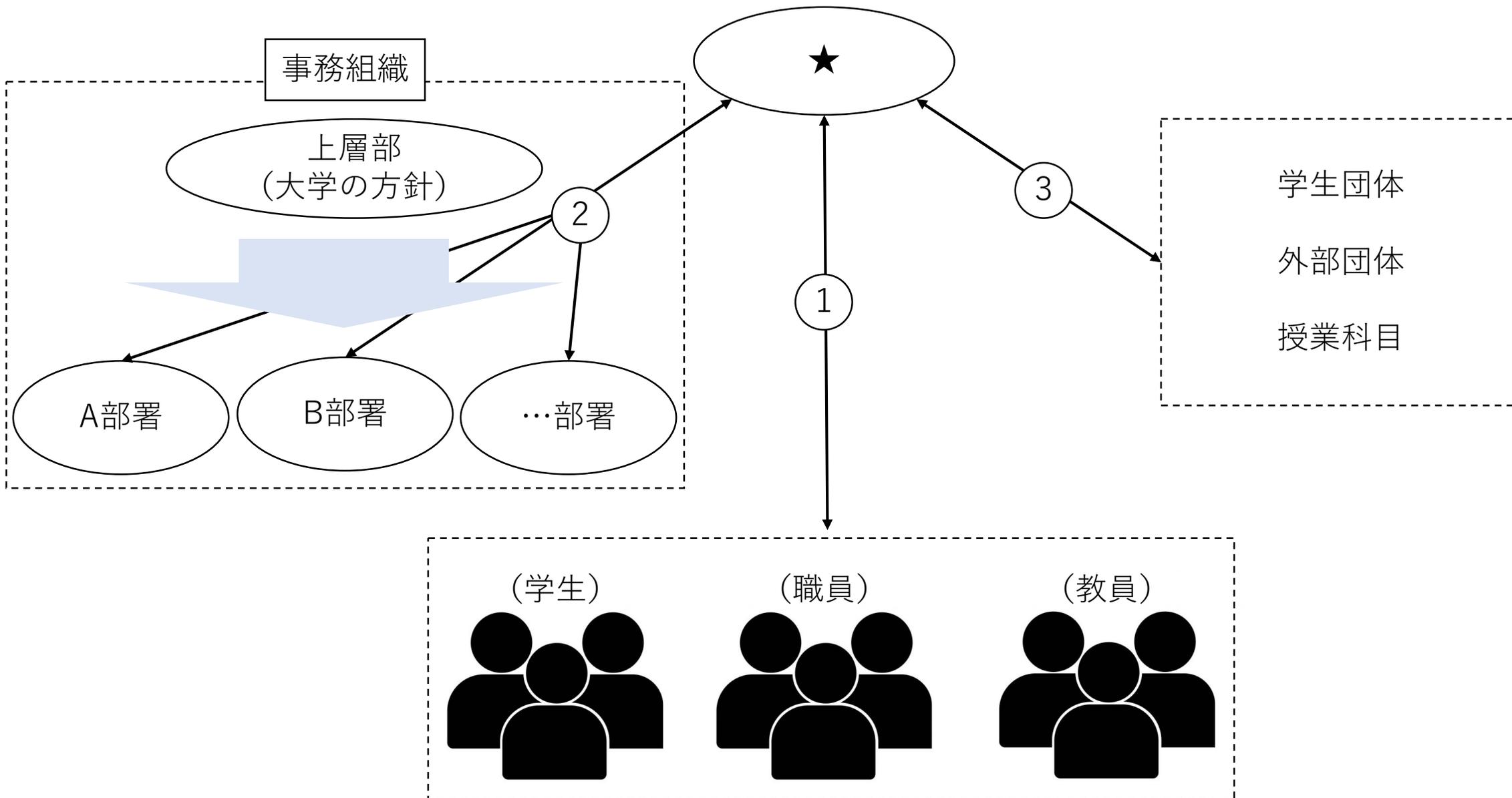


教授会では提案しにくい

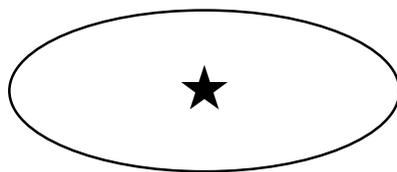
(職員)



このアイデアは
自部署だけでは実現できなさそう



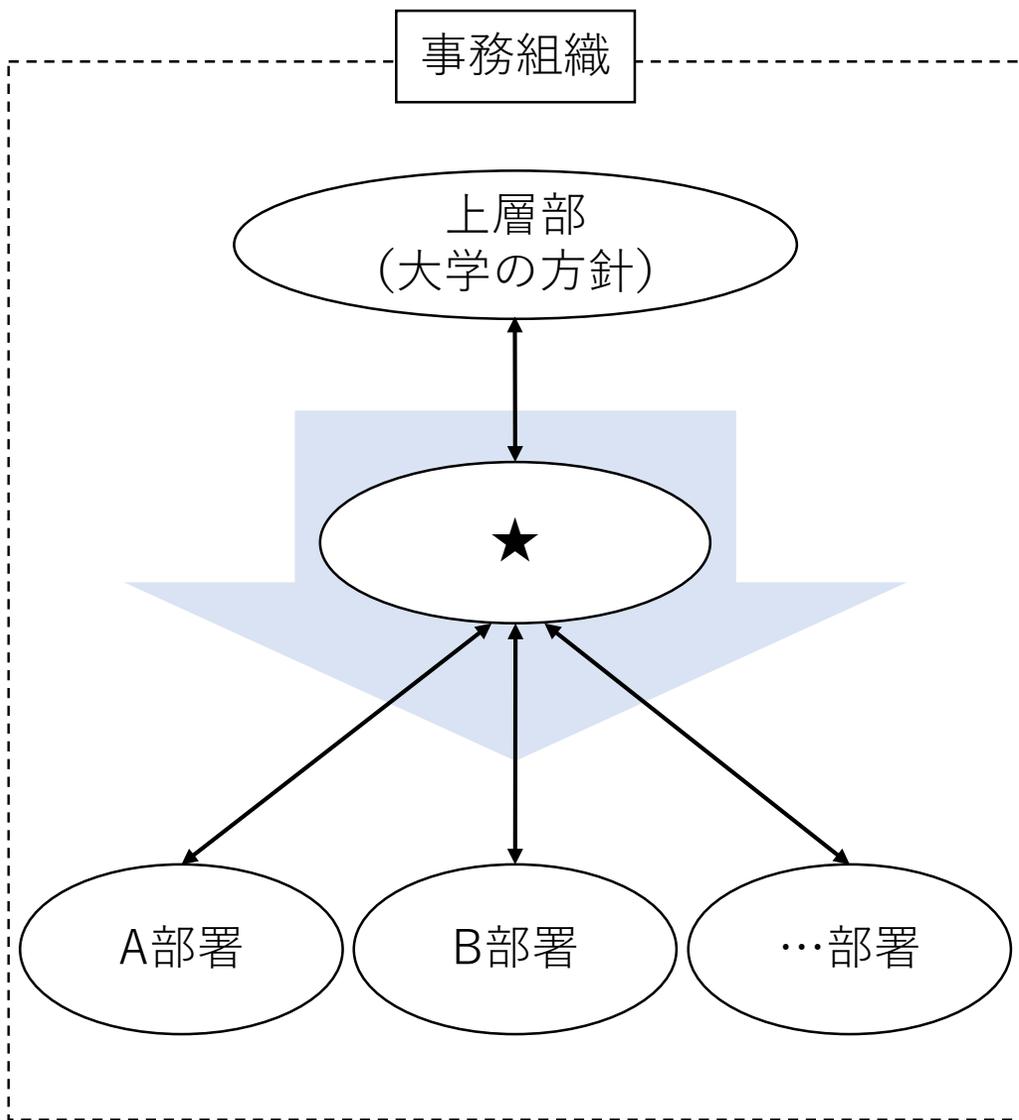
①



(1) 学生・教員・職員からアイデア・改善点を収集
※匿名でも可能にする

(2) 現状に対するアンケート調査の実施

②

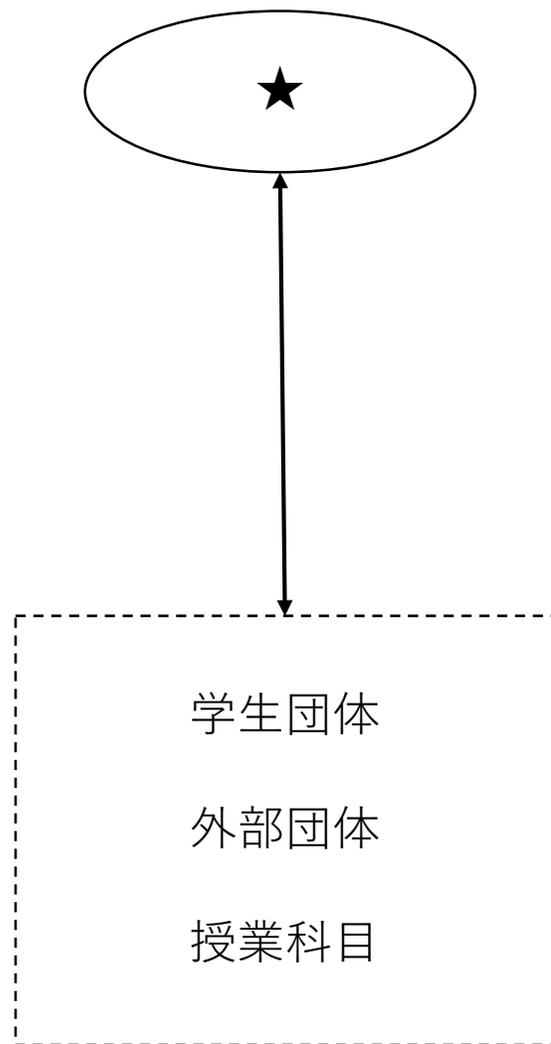


(1) 現場からアイデア・改善点の収集

(2) 集まったアイデア・改善点の共有

(3) 部署横断型プロジェクトの実行

③



(1) 授業科目との連携

(2) 学生団体との連携

(3) 外部団体との連携

解決策実現で予想される問題点・解決策

問題①

部署・窓口・委員会の立ち上げ



解決策

男女共同参画委員会を基礎とする

問題②

学生・教職員・学外への認知



解決策

授業科目との連携・プレリリース

成果の可視化

①目に見える数字

②アンケート調査

③外部指標の活用

だれでも参加しやすい関西大学